

21世紀の日本のかたち（29）

地域学（その1）



戸沼幸市
〈(財)日本開発構想研究所 理事長〉

1. 「新宿学」

「新宿は1日300万人が流動する世界の前衛都市です。混沌として夜通し動いているまち新宿とは何か、どこから来てどこへ行くのか。新宿の歴史と文化について多様なゲストを招いて、議論し、まちあるきを通して学びます。」

これは社会人向けに開校されている早稲田大学オープンカレッジに開設された講座「新宿学-前衛都市新宿の歴史と文化-」の主旨です。

「新宿学」は2004年4月に開設されましたので、今年（2010年）の春で7年目に入り、春講座10回、秋講座10回の年20回、これまでに120回の講義を重ね、今期で延べ3,500人以上の方がこのプログラムに参加したことになります。

受講生は男女、年齢とも多様ですが、受講の動機も様々です。「新宿」という地名にひかれ、まちあるきを通してこの都市を知ってみたい、青春を早稲田大学、新宿で過ごした人、自分は新宿に長年住んでいるが、改めて自分史に重ねて新宿の地理や歴史を体系的に学習してみたい、新宿が学問になるのか、といった具合です。リピーターも多く、新宿を隈なく歩き、それを独特な地図に仕上げた人もおります。

講師陣がまた多士済々で、数代続く老舗の当主、デパートの重役、コマ劇場元支配人、花園神社宮司、新宿駅長、新宿区長、ジャーナリス

ト、都市プランナー、都市学者・研究者と新宿を熱く語る人々です。

毎期、講座の打ち上げは、新宿は歌舞伎町のお店です。

2. 新宿-私の大学

私にとって新宿は青春の門であり私の大学でした。

「高田馬場駅で降りると駅前に黒い学生服が見えた。大学へのスクールバスに乗る学生たちの列だった」とは、同時期九州から早稲田大学の露文学科に入った五木寛之の『青春の門・自立篇』の書き出しです。私は18歳の春、昭和28年に南ではなく北は北海道、函館から早稲田の理工科に入って、新宿に住み着くことになりました。

当時、早稲田には全国から若い学生たちが集まってきておりました。上記『自立篇』の「俺は人間たちとつき合いたいのだ・・・世の中のしくみを眺め自分がどう生きてゆけばいいのかを求めるためにやってきたのだ」といった気分でした。

その点で入った大学が新宿にあったというのは私にとって決定的なことでした。

私と同世代の早稲田の学生で後年、ジャーナリストや作家、政治家になった人たちは少なく

ないのですが、「僕は学校には行かないで映画や芝居を見たり、喫茶店でだべったり、赤線に通ったりして過ごした」とうそぶいています

この言い方には照れ隠しもあるうが、学校の教室の板書の授業では得られない「生」^{なま}の情報が、戦後の新しい息吹を感じさせる「新宿」にあったことはたしかです。

都市は時代を映す鏡です。

「昔々、といってもせいぜい二十年ぐらい前のことなのだけれど、僕はある学生寮に住んでいた。僕は十八で大学に入ったばかりだった。東京のことなんて何も知らなかったし・・・」とは、昭和44年に関西から早稲田の演劇科に入った村上春樹の「ノルウェイの森」の第二章の書き出しです。寮は早稲田大学の隣の文京区目白台に在る「和敬塾」です。「僕と直子は四ッ谷駅で電車を降りて、線路わきの土手を市ヶ谷の方に向けて歩いた。」この時代になると、男女交流の舞台も新宿の青線、赤線ではなく、男女共学、女子学生の大勢いる大学が自由恋愛の主舞台となり、なにげない都市風景のものになりました。

昭和40年代は学園紛争の最中でした。昭和42年、43年の国際反戦デーに全学連の行った闘争は新宿区が舞台となり、ここにも一つの新宿物語があります。

私は昭和40年代から早稲田大学の教師になり建築学科で都市計画を担当しましたが、身近な新宿、特に歌舞伎町を教材としてよく活用しました。この歌舞伎町は戦後、町の人々が中心になりつくりあげたものですが、戦災復興の日本の都市計画、中心に広場を持つ盛り場のプランとして野心的なものでした。

これを指導助言したのが当時の東京都の役人で、後年、早稲田大学土木学科の都市計画の教

授を務めた石川栄耀^{いしかわひであき}でした。石川さんもこれを格好の教材としたようでした。昼の実地見学と夜の見学を合わせ技としたところがユニークです。私も学生たちと昼の授業の後、夜の新宿、歌舞伎町をよく飲み歩きました。教師が学生たちに教えたことよりも、街が学生たちに教えたことがはるかに多いに違いありません。

猥雑の新宿駅東口歌舞伎町と超高層の西口が隣り合っているのも新宿の街の面白いところです。様々な情報の一杯詰まった新宿はまさに私の大学です。

新宿は21世紀、平成年代に入ってまた大きく変わり始めています。この街に集まる人も国際的になり、今や100を超える国の人々が住んでいます。

国際化に合わせ、情報時代のもたらすまちの風景の変貌も興味深いものがあります。このまちがどこに向かうのかを探るのも「新宿学」の主題の一つです。新宿学に合わせて、町の人々と「新宿研究会」を立ち上げて未来像を画いたりしております。

3. いくつもの地域学

新宿学はいわば地域学のひとつです。

早稲田大学がたまたま新宿に所在したことが縁となって、大学史と重なる「新宿学」が生まれましたが、日本各地にいくつもの「地域学」があるはずで、事実、東京で見ても、上野学や墨田学、銀座学も名乗りを挙げております。さらには江戸・東京博物館を拠点に「江戸・東京学」もあります。

私の生まれ故郷である津軽地域、江戸時代の津軽藩の領域ですが、弘前大学が核となって「津軽学」、東北の大学（東北芸術工科大学など）の「東北学」があり、ユニークな研究を続けてい

ます。東北は柳田国男の研究にみるように民俗学の宝庫です。

私が高校までを過ごした北海道南、函館にも、新設の図書館に「函館学」のコーナーが設けられております。このコーナーには、函館開港150年の北方ロシアなどとの交流の歴史に関する興味深い文献があります。

戦後、地元沖縄と東京の都市・地域の研究者やプランナーで「沖縄学」を立ち上げましたが、これは重い課題を抱えております。

ひと口に地域といっても大小様々で、市町村レベルから県あるいは広域地方圏まであります。考えようによっては日本もまたひとつの地域とさえいえます。これを扱うとなれば「日本学」です。

地域学の特徴はまず「地べた」からの発想、発見です。地域学の目標は、時代を写し込む地域の歴史を歩いて見聞、記録し、人と地域の関

わり、土地の遺伝子を見つけ出すことです。そして、望ましい地域の未来をたぐり寄せることにあります。

とはいえ、地域学はまさに地域により、アプローチの仕方も話題も興味の焦点も様々なかたちがあるに違いありません。

現在、日本という大地域の政治、経済、社会状況が大きく流動変化していると実感されます。地域主権が唱えられ、具体的地域から日本の再生を考えようという動きが強まっています。日本を構成している中、小、微小、様々な地域に、これがまた具体的問題、課題となって現れています。

「21世紀の日本のかたち」を考えてゆく上で、まさに、処々方々で始まっている「地域学」の出番です。

(2010.05.15)

新宿学の講義内容

新宿学	
— 前衛都市新宿の歴史と文化 —	
コード 102028	曜日 木曜日 時間 13:00~14:30 日程 全10回・4/15~6/24
受講料 ¥23,000 定員 30名 定員残り 2 科目区分 2	講義概要 新宿は1日300万人が流動する世界の最先端都市です。混雑して夜通し動いているまち新宿とは何か、どこから来てどこに行くのか。新宿の歴史と文化について、ゲスト講師との講演や、まちあるき見学などを通して学びます。コーディネーター 戸沼幸市は毎回に出席の予定です。また、都合により講義の内容や順序が変更となる場合があります。 ※受講料に別添「まちあるき」に伴う費用は含まれません。
1 4/15 新宿学の視点 戸沼幸市 早稲田大学名誉教授、新宿研究会会長 新宿の街を、浅草、銀座といった繁華街と比較しつつ、巨大都市東京の中の新宿について都市論的な立場から考察します。	2 4/22 新宿の地形と階段 松本泰生 早稲田大学客員講師 新宿区内にある階段や坂道、川などを手掛かりにして、新宿の地形やそれにもつく街並みの特色について考えます。
3 5/6 新宿高野と新宿 高野吉太郎 新宿高野近代社社長 明治18年の創業以来、新宿で長い歴史を持つ新宿高野の4代目社長高野吉太郎氏を迎え、新宿高野と新宿の街について、お話しいただきます。	4 5/13 早稲田界隈を歩く 戸沼幸市・松本泰生 早稲田大学とその界隈の街を改めて歩き、大学を中心とした街の歴史と、その魅力を体験します。
5 5/20 内藤家と新宿 内藤頼道 高橋謙生内藤家第17代当主、元NHK国際アメリカ総局長 内藤頼道の名の由来でもある、高橋謙生内藤家第17代当主の内藤頼道氏を迎え、内藤家と新宿の街についてお話しいただきます。	6 5/27 新宿の大名屋敷の移り変わり 青柳幸人 早稲田大学客員教授、元NHK国際アメリカ総局長、元NHK国際局長 江戸期、新宿区内には多くの大名が屋敷を構えていました。明治以降、それら大名屋敷は家族邸宅や公共施設や学校など、さまざまに変化しました。新宿の大名屋敷の移り変わりについてお話しします。
7 6/3 玉川上水・神田上水と新宿 高橋和雄 新宿区前副都庁、新宿研究会副会長 新宿区内を流れていた玉川上水や神田上水は、江戸の街にとって重要な都市基盤でした。これら上水と江戸、そして新宿との関わりについてお話しします。	8 6/10 神田川を歩く 高橋和雄・戸沼幸市 第7回の講義を踏まえて神田川周辺を歩き、江戸期の痕跡をたどるもにも現在の状況を見学します。
9 6/17 新宿と私 山根基世 元NHKアナウンサー、元NHKエグゼクティブアナウンサー 元NHKアナウンサーの山根基世氏を迎え、戸沼幸市との対談形式で新宿との関わりなどについてお話しさせていただきます。	10 6/24 新宿学の成果 戸沼幸市、青柳幸人、高橋和雄、松本泰生 受講者と講師陣により、今期の新宿学の成果を話し合います。

資料：早稲田大学オープンカレッジ・平成22年春学期募集案内

新宿東口の過去・現在・未来

五街道の整備 (1604年)



「名所江戸百景 四ッ谷内藤新宿」
歌川広重
(安政4年)
(新宿歴史博物館蔵)

内藤新宿の開設 (1699年)



「江戸名所図会 四谷内藤新宿」
(新宿歴史博物館蔵)

新宿駅の開業 (1885年)



大正3年頃の新宿駅構内
(新宿歴史博物館蔵)

市電開通 (1893年～)



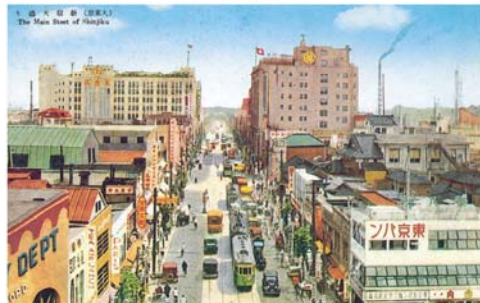
靖国通りの「新宿駅前」都電発着所 (昭和20年代)
(新宿歴史博物館蔵)

新宿駅三代目駅舎完成 (1925年)



新宿停車場 (大正14年竣工)
(震災復興絵はがきより)

新宿大通り (昭和初期)



昭和初期の新宿大通り (伊勢丹と三越がひときわ大きい)
(震災復興絵はがきより)

新宿通りのモール化イメージ



資料：新宿研究会の提案（2008.8）

東京の市街地拡大と新宿区

